



まいづる 市議会だより

Maizuru City Council News Letter

No. 144

平成27年(2015)
11月6日

主な内容

9月定例会のあらまし	2
代表質問	2
一般質問	4
常任委員会の審査報告	11
討論の内容	12
意見交換会	13
議案の採決結果	14
意見書、決議	16
12月定例会予定	16

- 歴史遺産を活かした地域づくり事業など1億5858万円の平成27年度一般会計補正予算を可決
- 平成26年度一般会計など各会計の決算を認定

平和への願いを 次世代へ

毎日が
世界を創り
愛する想いが
地球へと広がる
私は祈る



10月10日に開催された戦後70年・
海外引揚70周年平和祈念式典から
(大浦小学校児童の合唱)

9 月定例会のあらまし

●マイナンバーの通知カード再交付に 500 円、 個人番号カード再交付に 800 円

行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づき市民 1 人 1 人に交付される「通知カード」と「個人番号カード」を紛失等した場合、再交付に係る手数料を、通知カードは 1 件 500 円、個人番号カードは 1 件 800 円とする舞鶴市手数料条例の一部を改正する条例を可決

●26 年度一般会計は 1 億 339 万円の黒字決算

◎舞鶴市議会は、9 月定例会を 9 月 2 日から 10 月 7 日までの 36 日間開催し、市長から提案された平成 26 年度一般会計・特別会計決算、27 年度補正予算や条例制定、人事案件などの 20 議案を審議した結果、いずれも原案のとおり可決・認定としました。また、議員提案の意見書 2 件と決議 1 件も可決しました。

平成 27 年 舞鶴市議会 9 月定例会代表質問

平成 27 年 9 月 11 日

順番	質問方式	会派名及び氏名	質問事項
1	一括	公明党議員団 上羽 和幸	1 地方創生について
			2 「女性が輝く社会」について
			3 ふるさとテレワークについて
			4 高齢者福祉、介護サービスについて
			5 舞鶴市の重点施策について
2	一括	新政クラブ議員団 和佐谷 寛	1 市政に対する市長の思いについて
			2 平成 28 年度に向けた重点施策について
			3 海の京都観光圏と本市の取り組みについて
			4 世界記憶遺産登録と舞鶴引揚記念館事業について
3	一括	日本共産党議員団 小杉 悦子	1 市民の安全な暮らしを守る市長の姿勢について
			2 平成 26 年度決算の概要について
			3 生活保護、高齢者の医療など社会的弱者への支援について
4	一括	創政クラブ議員団 林 三弘	1 本市の地方創生について
			2 本市の農業政策について
			3 教育問題について
5	一括	鶴翔会議員団 井上 孝空	1 公務員倫理について
			2 障害者の外出支援について

※質問事項のうち各議員が記述の主な質問・答弁の要旨以外の事項は、ホームページをご覧ください。

平成27年9月11日、本会議を開き、各会派が代表質問を行いました。
質問・答弁の要旨は、次のとおりです。

代表質問



女性が活躍する社会を

質問 少子化の進行など労働人口の減少傾向で、女性の力を生かせなければ経済成長を維持できない時代といわれている。男女の立場が平等の社会を構築するには、全ての決定機関に半分は女性が必要だ。舞鶴市の審議会や委員会の女性割合と、市職員の女性幹部登用の現状と取り組みを聞く。

答弁 審議会・委員会の割合は、平成27年4月で23・9%。今後、委員の選定基準見直し

女性が活躍する社会と職場の推進を



公明党議員団 上羽和幸

や女性有識者の発掘に努めたい。市の女性管理職割合は11・3%。市役所での女性が活躍できる職場環境の創出と、企業にも推進啓発と情報提供に努めたい。

ふるさとテレワークの推進

質問 地方への人の流れをつくる手法として注目されているのが、地方で暮らしながらICTを活用して都市部の仕事を「ふるさとテレワーク」である。市内のICT環境充実と誘致に努めていただきたいが、どうか。

答弁 国の「ふるさとテレワーク」事業の検証結果を踏まえ、前向きに検討したい。

今後の市政に対する市長としての思いは



新政クラブ議員団 和佐谷寛

質問 平成27年度は、高速道路網の全線開通など、諸施設の整備を着実に推進され、まさにターゲットイヤーを迎えている。

市長は、今後のまちづくり「心豊かに暮らせるまちづくり」を重点項目の柱にすえ、目標とする「経済人口10万人」の元気なまちを目指したいとされ、また、本年5月には、舞鶴版「地方創生総合戦略」を策定し、国に提出された。

そこで、来年度以降の市政に対する市長の熱い思いを伺う。



舞鶴市みらい戦略推進会議

答弁 ターゲットイヤーであるこの好機を最大限に生かすため、本年5月に作成した「舞鶴まち・ひと・しごと創生総合戦略」の4つの政策の柱である「①しごとをつくり、安心して働けるようにする。②新しい人の流れをつくる。③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる。④時代に合った地域づくり、安心な暮らしを守る。」に基づく施策を「舞鶴市みらい戦略推進会議」を中心に進めてまいりたい。

自衛隊員の命を守る 仕事は市長の責任



日本共産党議員団 小杉悦子

質問 市長が危険な憲法違反の「平和安全法制」は廃案にと、意見表明することは、集団的自衛権容認の閣議決定や国会審議で、不安や心配されている自衛隊員や家族にとってどんなに心強いのか。市長の見解を求めます。

答弁 国会において慎重に審議をしていくべきであり、撤回を求めめることは全く思っていない。

一番の安全は再稼働中止

質問 ①高浜3・4号機は福井地裁の再稼働差し止め判決で再稼働はできないが、市長の考えを問う。②スピーディを活用しない国の方針を元に戻すよう求めるべきではないか。

答弁 ①司法判断の一つだが、司法におい

ても安全性が認められない限り、再稼働は容認できないものと考えている。②第4回地域協議会で「プラントの周辺で多重のモニタリングを行い、放射性物質拡散の方向や放出量など早期に推測するなど、スピーディを有効に活用できるよう工夫すべきではないか。」と意見を述べたところである。



関西電力高浜発電所3・4号機

平成27年9月11日本会議を開き、各会派が代表質問を行いました。
平成27年9月14日、15日本会議を開き、16人の議員が一般質問を行いました。
質問・答弁の要旨は次のとおりです。

代表質問・一般質問

北陸新幹線 敦賀以西ルートに声を



創政クラブ議員団
林 三弘

質問 北陸新幹線敦賀以西ルートが議論されている。日本海側都市発展の可能性を高め、かつ、災害時における山陽側の代替路線ともなる山陰新幹線との連結の可能性を残す北陸新幹線小浜ルートを、できるだけ西側に誘致する考えはないか問う。

答弁 北陸新幹線の敦賀以西のルート決定に向けた動きが加速している。府北部地域連携都市発展のためにも、誘致に向けて国や府などに強力に働きかけていく。

児童生徒の学力向上を

質問 全国学力テストにおいて、北陸・東北地方が毎年上位を占めている。こうした成績を上げている他県の教育現場への本市教員

の長期派遣研修による教員の資力向上を図ることが、学力向上につながるかと考えるが、教委の考えを問う。

答弁 学力向上には、教員の授業力向上を目指した研修が大変重要であり、他県への長期派遣研修について、府教育委員会に強く要望するとともに、市としてもよく検討したい。



学力向上に向けて

公務に対する 市民の信頼を



鶴翔会議員団
井上孝空

質問 「市長公舎問題」で、公金支出を伴う公文書の日付を遡るという、虚偽公文書作成も疑われる、市民の信頼を大きく損なう行為があった。住民が裁判に訴え、棄却になったが大阪高裁の判決文では「極めて不適切な行為」と言及された。公正な職務執行をすべき職員の倫理原則違反と考える。反省と再発防止への見解を問う。

答弁 まず京都地裁の判決文で指摘を受け、適正な行政文書の作成、管理に努めるよう全職員に文書で徹

底を図った。また、大阪高裁の判決後も、改めて幹部職員に徹底した。

聾学校の通学支援を

質問 府立聾学校舞鶴分校の通学は、保護者の付き添いで安全が確保されている。しかし、それも限界に近い問題が生じてきている。市において通学支援を行う考えはないか。

答弁 保護者の負担が大きいため、子どもが安全に確実な通学ができるよう、聾学校児童の通学支援について、それぞれの事情を勘案し対応していきたい。



聾学校への通学支援が必要

舞鶴茶の振興は

質問 静岡市で開催された第69回全国茶品評会の審査会で、本市の舞鶴茶は、かぶせ茶の部において四年連続日本一の栄誉に輝いた。私も一市民として生産者の皆様に心から敬意を表するものである。このような状況の中、市としての考えを問う。

答弁 舞鶴産のお茶がかぶせ茶の部で、四年連続日本一という快挙に本市としても、生産者の皆様に敬意を表する。さらなる普及促進に努め、新植、改植また、被覆棚などの施設整備を支援することにより、お茶の生産振興に努めていく。

質問 本年4月に開

農業農村活性化センターは



四年連続日本一 舞鶴茶

所した加佐地域農業農村活性化センターの現状と今後の取り組みは。



新政クラブ議員団
今西克己

答弁 担い手への農地集積などの農業振興支援や各種体験事業など地域の魅力発信、空き家などの情報提供など地域活性化の支援を、また、地域おこし協力隊員に着任していただき、加佐地域の情報の発信、田舎暮らし希望者の体験事業や移住希望者の現地対応に取り組んでいただいている。

一般質問

平成27年 舞鶴市議会9月定例会一般質問

平成27年9月14日、15日

順番	質問方式	氏名	質問事項
1	— 括	今西 克己	1 舞鶴茶の振興について
			2 加佐地域農業農村活性化センターについて
			3 職員団体について
2	— 括	高橋 秀策	1 舞鶴市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
			2 学力向上について
			3 市職員の人材育成と人材配置について
3	— 問 — 答	亀井 敏郎	1 加佐地域農業農村活性化センターについて
			2 安心・安全のまちづくりについて
			3 「戸島」について
4	— 問 — 答	伊田 悦子	1 マイナンバー制度の実施中止を求めることについて
			2 舞鶴市まちなかエリア定住促進空き家再生事業について
			3 子育て支援の充実について
5	— 括	杉島 久敏	1 胃がん検診の方向性について
			2 防災対策について
			3 舞鶴観光について
6	— 括	西村 正之	1 教育環境の展望について
			2 学力向上のための取り組みについて
			3 市立舞鶴市民病院について
7	— 括	眞下 隆史	1 引揚記念館事業について
			2 水道事業について
8	— 括	谷川 眞司	1 オストメイト対応のトイレについて
			2 健康遊具の設置について
			3 「市民による政策評価会」について
9	— 括	松岡 茂長	1 高浜原発の再稼働問題について
			2 「前島みなと公園」について
			3 平成26年度の決算について
10	— 括	石束 悦子	1 TPP問題について
			2 教育について
			3 災害対策について
11	— 括	小谷 繁雄	1 人がいきる図書館の活用と充実について
			2 地域公共交通の再構築について
			3 空き家対策に関する特別措置法について
12	— 括	上野 修身	1 活力あるまちづくりについて
			2 森林環境整備について
			3 消防団について
13	— 括	伊藤 清美	1 超高齢化社会に向けた取り組みについて
			2 全国高校総体レスリング競技と2020年東京オリンピックについて
14	— 問 — 答	後野 和史	1 公共料金見直しについて
			2 安心して住み続けられる国民健康保険、介護保険について
			3 市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
15	— 問 — 答	松田 弘幸	1 環境対策について
			2 次代を担う子供の支援について
16	— 問 — 答	肝付 隆治	1 舞鶴市のまちづくりについて
			2 観光客の誘致について
			3 引揚記念館資料の世界記憶遺産登録について

※質問事項のうち各議員が記述の主な質問・答弁の要旨以外の事項は、ホームページをご覧ください。

まいづる市議会だよりをスマホで配信スタート!

「まいづる市議会だより」のスマートフォンアプリ「i広報紙」での配信を始めました。簡単操作でいつでもどこでも読むことができます。

アプリのダウンロードや利用料は無料（パケット通信料は利用者負担）。iPhone、iPad、Android 端末で利用できます。

【注意事項】 i広報紙は株式会社ホープ（福岡市）が運営しており、アプリ中に掲載される広告は舞鶴市議会と関係ありません。

【利用方法】

- ① 「i広報紙」を検索
- ② 「i広報紙」アプリをダウンロード
- ③ アプリを起動し、性別、生年月日、居住地、興味を入力
- ④ 登録完了、利用開始。



平成27年9月14日、15日本会議を開き、16人の議員が一般質問を行いました。
質問・答弁の要旨は、次のとおりです。

一般質問

学力日本一を 目指そう

質問 教科指導に卓越した先生を教育専門監に認定し、近隣の小中学校で授業する制度を検討し、若手教員の資質向上につなげるべきである。また、教員を先進地へ研修させることも有効であるが、市の考えを問う。

答弁 教師力の向上については急務の課題であり、特に中堅職員の優れた指導力を若手教員に伝えていく取り組みを検討する必要があるため、他県の教員を招いて授業改善につながる公開授業や講演会を実施するなど検討する。また、長期派遣研修や教育専門監制度について、府教委に要望するとともに、市としてもよく検討する。

市職員の人材育成

質問 職員派遣によって国と自治体、官と民といった垣根を越えた幅広い視野を養うことは、人材育成の重要な機会になる。外部団体への職員派遣による人材育成について問う。

答弁 国や府などの機関に派遣を行い、能力開発、人材育成を図ることによって、組織力を高め市民サービスの向上につなげていく。



創政クラブ議員団
高橋 秀策



舞鶴市役所 本庁舎

犯罪抑止効果を高める 見せる防犯活動



鶴翔会議員団
亀井 敏郎

質問 近年、全国的に青少年や高齢者が被害に遭う事件が発生している。本市においても例外ではなく、さまざまな刑法犯罪が多発している中で、犯罪の起きにくい環境整備が重要と考える。そのためには「見せる防犯活動」が重要であり、民間の活力も得ながら行政による青色防犯パトロール車の整備拡充が不可欠と考えるが、市の見解を問う。

答弁 民間団体の協力による青色防犯パトロール車の拡充は考えていない。今後、見せる防犯活動の充実が図られるよ

う努めていきたいと考えている。

大切な地域住民との連携

質問 本年4月に加佐地域農業農村活性化センターが開設された。この施設は加佐地域の農業振興や定住促進など、地域活性化が大きく期待される中で、地域住民との連携、協働が大変重要と考えるが、市の見解を問う。

答弁 地域の活性化は、地域の住民とセンターが車の両輪のごとく連携して取り組んでいかないと成功しないと考えている。



民間活力を入れて 青色防犯パトロールカー

定住促進すすめる 全市的な空き家対策を



日本共産党議員団
伊田 悦子

質問 中心市街地の空洞化に歯止めをかける「舞鶴市まちなかエリア定住促進空き家再生事業」は、①事業の全市的な拡大・事業の継続を②事業の発注を地元業者に限定すること。これらいかがか。

議する必要あり。いかがか。

答弁 ①事業の利用状況と効果を踏まえ、適切に対応。②地元業者発注に限定すると要綱で定めている。

答弁 市民ニーズの把握に努め、さらに利用しやすい公共交通機関の運行などについて検討していく。

子育て交流施設にバス停を

質問 天候に左右されず、子どもを安全に楽しく遊ばせることができ、さまざまな世代が集い子育てができる「子育て交流拠点施設」は多くの利用もあり、喜ばれている。しかし公共交通ルートから外れ不便。ルート変更含め交通事業者と協

質問 北部最低の子育て医療費助成拡充で助成最低の汚名返上を。
答弁 進んでいる他地域の状況注視。安心して産み育てる事ができる環境づくりを総合的に進めていく。



子育て交流施設

平成27年9月14日、15日本会議を開き、16人の議員が一般質問を行いました。
質問・答弁の要旨は、次のとおりです。

一般質問

防災、ハザードマップ
作製・見直しを

質問 被災後の混乱の長期化を防ぐため、交通インフラの耐震性などを問う。また、想定し得る最大規模の降雨を前提とした土砂災害に対するハザードマップ作製・見直しの進捗状況について問う。

答弁 緊急輸送道路の耐震補強状況については、今年度中に全て完了の予定。ハザードマップについては、土砂災害防止法の改正に伴い、全面的な見直しに取り組み考えている。作製後、全戸配布の予定である。

質問 京都舞鶴港をアピールし、舞鶴市街の観光人口増加を目指す『歴史のみち』整備計画の取り組み状況と今後の進捗予定および、

舞鶴観光の施設整備を推進



公明党議員団
杉島久敏

観光拠点となる赤れんがパーク周辺一帯の利用・施設整備についての本市の考えを問う。

答弁 まちづくり推進の『歴史のみち』整備計画は、早期完成を目指し実施する予定。今年度、赤れんがパーク周辺から潮路通り一帯を一大交流拠点として開発・整備の構想策定に取り組んでいる。



観光拠点となる赤れんがパーク

学力向上のための
取り組みについて

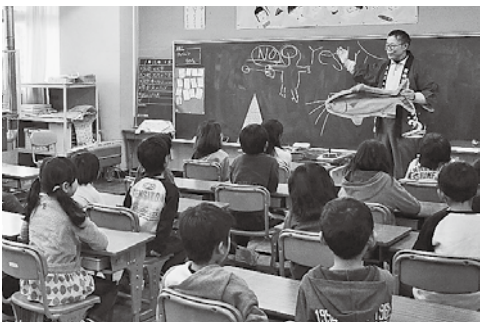


会派に所属しない議員
西村正之

質問 小学三年生までに習得すべき基礎、基本学力に課題のある三、四年生を対象に、国語、算数において、つまづきや定着度に不十分が見られる児童に対し、つまづきの早期解消を図るため、別教室などで個別学習指導を行う講師を配置することは、児童・生徒の確かな学力の定着と伸長を図る観点から肝要なことと考えるが、本市の見解を問う。

答弁 学力向上のための講師の配置については、基礎的、基本的な学

習内容の定着を通じ、学ぶ意欲を育て、学力の充実、向上を図ることは重要であると考えており、今年度より、小・中学校に在籍する学習面につまづきのある児童・生徒に対し、基礎学力の定着を図ることを目的に、中学校区ごとに学習サポートを配置し、授業時間中の児童・生徒への学習支援や別教室での個別学習指導、放課後学習など、学校の状況に応じた支援を行う市独自の事業を実施しているところである。



小学校の授業風景

引揚記念館事業内容と
来場者への対応は

質問 舞鶴市が掲げる交流人口300万人の達成に大きく貢献できる観光の目玉として、引揚記念館資料のユネスコ世界記憶遺産登録達成には大いなる期待をしている。多々見市長就任以来の取り組みで引き揚げの史実・歴史・平和の尊さ・舞鶴が出迎え歓迎した歴史を国内外に配信されたことは大変意義のある取り組みと評価する。これまでの推進活動内容を尋ねる。

答弁 姉妹都市ナホトカ市に協力要請・首都圏でのプロモーション活動・音楽劇「君よ生きて」の全国公演を通して登録署名5万人につながったと考える。

質問 引揚記念館来



新政クラブ議員団
眞下隆史

場者が増加し、舞鶴市の観光者が増える大きなプラス面と引き換えに、交通渋滞や事故など市民生活に一定影響を与えると考えられるが、対応策を尋ねる。

答弁 記念館へのアクセス道路の現状は朝夕に交通渋滞が多く、市民にとっても安全でスムーズな案内誘導サイン・看板・マップなどが大切と考えている。



リニューアルされた引揚記念館

平成27年9月14日、15日本会議を開き、16人の議員が一般質問を行いました。
質問・答弁の要旨は、次のとおりです。

一般質問

オストメイト対応 トイレの設置



オストメイト対応トイレ

質問 全国には、たくさん的人工肛門や人工膀胱の保有者がおられ、交流人口300万人を指す舞鶴市においても、オストメイト対応トイレの増設が必要と思われるが、舞鶴市の現在の設置数と、その増設および所在情報の発信について問う。



創政クラブ議員団
谷川 眞司

けるオストメイト対応トイレの整備に努める。情報発信は、市のHPなどを活用しながら取り組んでいく。

「政策評価会」の活用

質問 「市民による政策評価会」が実施された。地方創生、市政にどのようにつながっていくのかを問う。

答弁 市民・地域が一丸となって「総合戦略」を強力に押し進める体制として、「舞鶴市みらい戦略推進会議」を7月に創設した。「市民による政策評価会」は、本市の地方創生を進めていく上で参考となり、今後のまちづくりの検討に活かしていきたい。

原発再稼働に 地元「同意権」を



再稼働に「同意権」を



鶴翔会議員団
松岡 茂長

質問 原子力規制委員会の審査に合格すれば安全だという、新しい「安全神話」が復活しようとしており危惧している。福島事故を受け、避難計画が必要な区域を30キロ圏に拡大したのに、地元同意は従来通りだ。自治体

に重い避難対策の責任を課しながら、「同意権」を保障しないのは不合理だと考える。高浜原発に最も隣接する市の市長として、同意権を求める努力をしているのか問う。

答弁 「同意」とは国が立地自治体などに理解を求める行為だ。京都府と府内7市町で構成する「地域協議会」の理解がなければ再稼働は前進しないと認識している。

市民病院の赤字は5つまで

質問 昨年度の決算で赤字額は4億8600万円だ。大幅な経営改善を図ると言っていたはず。これからも毎年数億円の経営補助をしていくのか。見通しを問う。

答弁 今後、満床に近い状態の維持や、経費の縮減により収支改善を図り、補助金の削減に努めていく。

決裂したTPP交渉 二国間協議は心配

質問 農家は長雨で作業が大変。米30キロ5500円の安値。その上米国などの二国間協議で米、麦、肉など輸入増大の心配。一方消費者は残留農薬のある安い食料の輸入で子どもや若者の健康が心配。①そこで生産者、消費者に影響ないか。②医療問題も含め心配なTPP交渉の反対の意を国に要請すべき。いかがか。

答弁 ①TPP交渉にかかわらず農業者への支援策は引き続き実施。②食品の安全確保、医療福祉などへの懸念が現実とならぬよう万全の体制で交渉に臨むよう全国市長会を通じて政府に求めている。

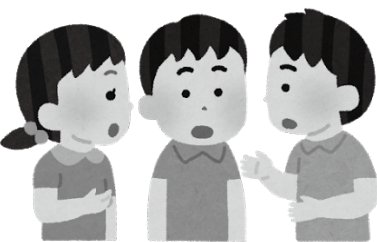
教育大綱で競争あおるな



日本共産党議員団
石束 悦子

質問 教育大綱で①早期教育をあおっているのか。②全国、府下でも多い不登校対策にチャレンジテストなど競争とよい子づくりでなく、自由に言い合える学校クラス、居場所作りが大切だがその観点は。

答弁 ①乳幼児期は遊びの中で主体性、自立性を養う。②小中一貫教育で不登校の減少に取り組む。



なんでも話せる仲間たち

平成27年9月14日、15日本会議を開き、16人の議員が一般質問を行いました。
質問・答弁の要旨は、次のとおりです。

一般質問

人がいきる図書館へ 活用と充実を



公明党議員団
小谷 繁雄

質問 図書館利用について、環境整備など課題がある。また、新蔵書管理システムの導入について問う。

答弁 図書館の登録者数は3万4千人である。社会教育委員からの提言について、市民ニーズを把握し、多くの市民の利用を考えていく。「カメレオンコード」による蔵書管理システムについては、経費など、課題も多い。

地域公共交通の再構築を

質問 バス運行の利便性についての課題と今後の展開、また、交通政策白書から見た「地方創生」の交通政策について問う。

答弁 住民ニーズを把握し、交通事業者と相談し、公共交



地域の公共交通

通の利用促進をするとともに、「舞鶴市公共ネットワーク会議」を新たに設置し、公共交通の利用拡大や利用環境の改善を図る。自動車から公共交通を利用する「エコ通勤」などモビリティ・マネジメントの利用拡大や高齢者外出支援を継続し、北部5市2町による「公共交通の利便なまち・まいづる」「交通の利便な田舎」の実現を目指す。

森林環境税導入における市の認識は



新政クラブ議員団
上野 修身

質問 8月5日、京都府は「森林環境税」を平成28年度から導入する方針を明らかにした。目的は府民のくらしの安心・安全を確保する上で、森林の多面的機能の果たす役割は重要であり、その恩恵を広く府民全体が享受している。これら森林の多

面的機能を維持、増強するための施策に要する経費の財源とする。とあるが、市としてどのような認識か。

答弁 森林環境税は、平成15年度の高知県を最初に、現在ま

で35の県で導入されている。公益的機能が低下した森林の整備や放置竹林整備、森林保全活動や木材の利用促進に係る事業などに活用されている。京都府においても他県同様、森林の有する公益的機能の維持・増進の財源に充当し、人工林の間伐や土砂流出などの災害に強い森づくりなどに活用されると認識している。税額は、年間一人当たり500円から600円程度を府民税均等割額に上乗せし徴収する方向と伺っている。



森林環境整備を

超高齢化に向けた 取り組み



新政クラブ議員団
伊藤 清美

質問 3月末に閉鎖した3保育所の、高齢者や障害者およびサークル活動など地域のニーズに即した有効活用について問う。

答弁 市街地に所在する3月末に閉鎖した保育所は、まちづくりの観点からも重要な課題と認識。公共施設マネジメントの取り組み



全国高校総体レスリング競技大会

質問 5年後に開催される東京オリンピック・パラリンピックについて、本市の関わり方を問う。

答弁 全国高校総体レスリング競技の実施と成果を踏まえ、各国の直前合宿や聖火リレーは地域の活性化につながるものとして認識し、情報収集に努め、スポーツ交流を通じて地域の活性化、交流人口の拡大に努め、魅力ある地方創生を実現したい。

平成27年9月14日、15日本会議を開き、16人の議員が一般質問を行いました。
質問・答弁の要旨は、次のとおりです。

一般質問



使用料割り増しの見直しを

公共施設の割増は 市民の目線で見直しを



日本共産党議員団
後野 和史

質問 いま公共施設の使用料が見直し検討されているが、現行条例は営利・営業などや市外の利用者と同様に、入場料・会費を取る場合も割増料金となるが、市民の自主的活動を支援する観点からも見直すべきだがどうか。

答弁 現行は営利目的かどうかは問わず、入場料・会費を徴収する場合は割増料金となるが、サークルなどの会費、必要な資料代・弁当代などの実費分は

対象ではない。割増料金なども今後検討する。

国保はどう変わるのか

質問 国保が30年度から府県に一元化、医療費の抑制など、市民への影響は大きいのが、保険証などどう変わるのか。市の基金残高は保険料の引き下げなどに使うべきだがどうか。

答弁 改正は規模の拡大で財政運営の安定化、事務の効率化などである。府と市が共同で国保を運営するが、府は医療費の交付などの財政運営、市は資格管理や保険料の賦課徴収、保健事業などを担う。基金は市が特定検診など健康づくりに使う。

環境対策に 木質バイオマス発電



公明党議員団
松田 弘幸

質問 環境対策、エネルギーの地産地消、森林整備、また、整備により有害鳥獣対策となる木質バイオマス発電の導入について、市の考えを聞く。

答弁 京都府が木質バイオマス発電構想を進めており、本市への導入を積極的に推進できると要望を行った。

子どもの夢づくりを

質問 夢先生が体験をもとに、夢を持つ大切さ、夢をかなえるために何をなすべきか、仲間と協力することの素晴らしさなどについて、子どもたちと熱く語り合い、自らの体験

をもとに、相手を思いやる心、夢に向かって努力することの素晴らしさを全力で子どもたちに伝える、公益財団法人日本サッカー協会のこのころのプロジェクト・夢の教室の実施について問う。



子どもの夢づくりを

答弁 生徒が将来の生き方や進路に夢や希望を持ち、その実現を目指して、学校での学習や生活に意欲的に取り組みようになることを目指し、夢講演会の一層の充実に努める。

立地適正計画で 持続可能な都市形成を



創政クラブ議員団
肝付 隆治

質問 立地適正化計画は、居住機能や福祉・医療・商業などの都市機能の立地、公共交通の充実などに関する包括的なマスタープランであり、持続可能な都市形成を実現し、生活に密着した施設に高齢者などが歩いて行けるような生活環境を作るためのものである。この計画により舞鶴市の将来像をイメージできるようにするが、作成に当たっては産・官・学・民・労など各界の意見を反映する必要があるが、その手順と留意点を問う。

答弁 本年度は都市構造に関する基礎調査および客観的データに基づく都市構造上の課題分析を実施し、来年度はそれらのデータを活用して都市機能の立地誘導などを検討し、年度末作成を図る。
検討を進めるに当たっては、検討会議を立ち上げ、各分野の関係団体から広く情報を収集し課題を共有しながら進める。併せて現在進めている都市計画制度の見直しと、まちなか居住誘導施策の整合性を図る。

を問う。



舞鶴市都市計画マスタープラン

本会議において付託された議案は19件で、予算決算委員会15件、民生環境委員会1件、建設委員会2件、総務文教委員会1件を、それぞれの委員会で審査しました。

予算決算委員会

10件は全員異議なく、5件は賛成多数で認定および可決

平成26年度舞鶴市一般会計決算の認定について、経常収支比率が96%を超えた要因は、25年度と比較して、人件費や扶助費などの増のほか、市税収入における償却資産に係る固定資産税の減収などによるものであること。これを健全化するため、事務事業の徹底した見直しを行う一方で、地域経済の活性化や地域活力の増進を促すことにより、税収を増加させることに取り組みたいなどの答弁がありました。

また、市民税の約8千500万円の減収の要因は、公務員給与の減額と一部法人の業績不振によるものであること。

に比べ約200万円の増となつていますが、その要因は、コンビニでの取納を、市民税と固定資産税分にも拡大したこと、その手数料が増えたことによるものであるなどの答弁がありました。

討論において、認定できない立場から、観光や総合戦略の具体化とは言えない公共施設の改修などに多額の財源が使われ、経常収支比率が大きく悪化しているなどの意見がありました。

一方、認定する立場から、選ばれるまちづくりの基礎となる観光医療対策、子育て、教育環境や福祉の充実などの取り組み、地域の人づくり・ものづくり、インフラの整備や消防・防災体制の充実などの事業の実施において、本市の将来に向けた基盤づくりのために積極的に展開された施策で、実質収支1億3

39万円の黒字で、昭和50年度から黒字決算となつているなどの意見がありました。

次に、平成26年度舞鶴市病院事業会計決算の認定については、討論において、認定できない立場から、一般会計からの経営支援補助金を含んだ実質赤字決算で、今後も大幅な収支改善は見込めないなどの意見がありました。

一方、認定する立場から、療養病床に特化した新市民病院は、急性期公的3病院と連携を図り、1日平均入院患者の増加により入院収益が増取となったため、経営支援補助金が減額となつているなどの意見がありました。

を行うべきであるなどの意見がありました。

次に、平成26年度舞鶴市介護保険事業会計決算の認定については、討論において、認定できない立場から、市として保険料の引き下げの努力をすべきであるなどの意見がありました。

次に、平成26年度舞鶴市後期高齢者医療事業会計決算の認定については、討論において、認定できない立場から、被保険者は医療にかかる割合が高い高齢者であり、制度そのものに問題があるなどの意見がありました。

次に、平成27年度舞鶴市一般会計補正予算(第2号)については、討論において、賛成の立場から、舞鶴市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実現に向け、引揚記念館のリニューアルを契機とした情報発信の強化や赤れんがパークなどの歴史遺産

を活かした地域づくり事業など、国の地方創生先行型交付金の上乗せ交付金の活用などの早期取り組みを評価するなどの意見がありました。

民生環境委員会

マイナンバーカードの再交付に係る手数料を追加

舞鶴市手数料条例の一部を改正する条例制定は、いわゆるマイナンバー法に基づく再交付に係る手数料を、「通知カード」は500円、「個人番号カード」は800円と定めるものなどであるとの説明を受けました。

討論において、反対の立場から、情報漏えいなどの心配や不安を払拭できないとの意見がありました。

一方、賛成の立場から、マイナンバー制度の効果と利便性は有効であり、セキュリティ問題にしっかり対応

建設委員会

市営住宅の入居要件を改正

公営住宅法及び住宅地区改良法による舞鶴市営住宅等管理条例の一部を改正する条例制定は、市外に住所を有する者の市営住宅への入居、いわゆるDV法に規定する被害者などの市営住宅への入居について、住所要件を定めるものであるなどの説明を受けました。

討論において、反対の立場から、DV被害者の引き受けには賛成するが、舞鶴市民を優先する規定がないとの意見がありました。

一方、賛成の立場から、民業を圧迫するものではなく、応募の少ない団地については、今後、十分な調査検討を要望するとの意見がありました。

10月7日の最終本会議において、提案された議案に対して各党派が討論をしました。

市民病院の収支は見通しが不透明



鶴翔議員団
松岡 茂長

19議案の内、病院事業会計決算には反対、その他は賛成の立場で討論する。市民病院は一般会計から4億8600万円という多額の赤字補てんを受けている。今後いつまで赤字が続いていくのか。市は「満床に近い状態を維持する。経費の縮減で収支改善を図り、補助金の削減に努める。」といった抽象的な言い回しだけで、今後の具体的な収支試算表を示さない。また、会計の将来見通しは毎年度の予算で示していくなどと全く納得のいく説明



市立舞鶴市民病院

ではない。舞鶴市全体の財政が急速に弾力性を失う中、市民病院に今後いつまで多額の赤字補てんが続き、一般会計に負担を強いていくのか明らかではない。よって、病院事業会計決算には反対する。

観光に際限のない予算

観光施策ならいくら予算をつぎ込んでもいいという考えは疑問だ。今回は財源がらみで補正はやむを得ないが、従来から年度途中の補正予算が目立つ。思いつきではなく当初に年間の事業計画をしっかり立てるよう望む。

市民ニーズを捉え政策・要望の実現を



公明党議員団
小谷 繁雄

実質収支1億339万円の黒字決算で、基金の取り崩し、市債の発行額も、当初予算に比べ減額した収支の取り組みを評価する。財政の健全性、弾力性の指数である経常収支比率が96・1%となり、昨年度比8%の伸びを示している。固定資産税や交付税など経常的一般財源の減額の中、経常経費は扶助費、物件費の増、退職金の大幅増となっており、今後、経常経費の削減と健全化に向け、一層の努力をお願いする。また、市民税と



市民ニーズの把握を

固定資産税が減少を続ける中、大幅に基金、積立金が減少している。今後、自主財源をはじめ、財源確保に一層の努力をお願いする。官民協働という問題意識を共有し、「地方創生」に向けた事業を効率化し、適正水準とバランス的判断で地域での議論を集結するとともに、市民ニーズを的確に捉え、政策要望を敏感にキャッチしながら、行政職員の英知の結集と責任感ある取り組みを望み、全議案に賛成する。

くらし・福祉優先で地域経済の活性化を



日本共産党議員団
石束 悦子

提案された19議案のうち、12議案は賛成、残る7議案は反対。26年度一般会計決算では、将来の基盤づくりとして多額の支出で、基金は減少、市債は増加し、経常収支比率が96・1%となり、一般財源(市税・地方交付税など)で経常的経費(人件費・扶助費など)が賄えない状況で財政が悪化している。市長は提案説明で、何も触れず問題で、財政計画を立てるよう求める。休日急病診療所は完成が延び、医師確保できないことから



舞鶴市休日急病診療所

月2回の診療では、市民の願いと再生計画に背いたもの。教育では、競争をおおる市独自テス、特定の進学コースへの支援は問題あり。病院事業会計は、一般会計からの補助金に依存する経営が続くと想定されることから、収支の見直し計画を求める。国保・介護保険・後期高齢者医療の事業会計は、市民への負担軽減の立場に反対。市外の方に市営住宅入居資格を与える条例改正は、市民が優先という規定がなく反対。

10月7日の最終本会議において、提案された議案に対して各会派が討論をしました。

選ばれるまちづくりへの取組を評価



創政クラブ議員団
尾関善之

今9月定例会に上程された全議案に賛成する。平成27年度に大きく飛躍するための政策目標、交流人口300万人・経済人口10万人の都市、舞鶴の実現の基礎固めとして、多くの事業に渾身のご努力をいただいた。

主な事業として舞鶴市を中心に、秋篠宮様ご夫妻ご臨席のもと、海フェスタ京都の開催、「引き揚げ」の史実と平和の尊さを発信していくユネスコ世界記憶遺産への登録に向けた取り組みとして引揚記念館の大規模改修、「赤れんが」「海・港」



全面開通した京都縦貫自動車道

を活かした観光プラン下戦略の推進、京都舞鶴港の機能強化による大型クルーズ船の寄港・国際フェリー・コンテナ貨物の増加、舞鶴若狭自動車道、本年は京都縦貫自動車道の全線開通により長年の懸案であった高速道路網が完成し、市政発展のビッグチャンス到来となり、飛躍的な人流・物流拡大の好機がまさにターゲットイヤーの年と考える。

これらの取り組みを高く評価する。

舞鶴引揚記念館の資料世界記憶遺産登録



新政クラブ議員団
福村暉史

69号議案から87号議案までの全議案に対し、賛成および認定の立場を表明し討論する。

平成27年度一般会計補正予算歳出総務費では、歴史遺産を活かした地域づくり事業を実施。引揚記念館の資料が世界記憶遺産に登録されたなら、全国メディアへの情報発信は多くなり、引揚記念館のリニューアルオープンを機に、全国からの来訪者も増え、本市のさらなる飛躍につながるものと確信する。

農林水産業費では、万願寺甘とうのブランド力を活かし、京



ユネスコ世界記憶遺産登録決定

野菜として全国に出荷できる生産体制を要望する。

市民病院への補助金減少

75号議案については、市民が待っていた新しい市民病院が開設され新病院における病床利用率の向上に取り組みれるとともに、その経営体制の適正化などに向け取り組みられた結果、一般会計から病院事業会計への補助金については大きく減少した。

今後とも、経営の健全化に向け一般会計からの財政支援をさらに減らし、さらなる改善に努めていただきたい。

舞鶴市議会



平成27年意見交換会

舞鶴市議会では、市議会および議員の政策提案機能の強化・拡大を図るとともに、議会活動を広報する機会とするため、市議会の常任委員会の委員をメンバーとする班に分かれ、所管する分野のテーマを設定して、市内で組織的に活動されている団体と意見交換会を行いました。

班別の実施日、テーマ、参加者は次のとおりです。

- 総務文教班(7人)
- 【実施日】平成27年10月11日(日)
- 【テーマ】中学校生活に思うこと
- 【参加者】市内中学校生徒(14人)
- 民生環境班(6人)
- 【実施日】平成27年10月15日(木)
- 【テーマ】介護保険制度と介護人材の確保について
- 【参加者】介護老人福祉施設施設長会(7人)
- 建設班(7人)
- 【実施日】平成27年10月26日(月)
- 【テーマ】空き家対策について
- 【参加者】舞鶴自治連・区長連協議会(10人)
- 経済消防班(7人)
- 【実施日】平成27年10月27日(火)
- 【テーマ】有害鳥獣について
- 【参加者】農林業関係団体・生産者(9人)

10月7日の最終本会議での議案採決の結果は、次のとおりです。
 この採決は、「押しボタン式投票」で行ったものです。
 この結果は、舞鶴市議会のホームページでも公表しております。

(平成 27 年 9 月定例会)

会期：9月2日～10月7日

全会一致で可決した条例議案

- 舞鶴市地域防災計画に定める大規模な工場その他の施設の用途及び規模の基準に関する条例の一部を改正する条例制定について

全会一致で可決したその他の議案

- 市道路線の認定及び廃止について
- 人権擁護委員候補者の推薦について

全会一致で可決した意見書

- ヘイトスピーチ対策について法整備を含む強化策を求める意見書（案）
- 地方創生に係る新型交付金等の財源確保を求める意見書（案）

可…可決、否…否決、同…同意、承…承認、認…認定、認可…認定及び可決、採…採択、不…不採択、○…賛成、×…反対、欠…欠席、退…退席、除…除斥、棄…棄権

林三弘	山本治兵衛	今西克己	上野修身	岸田圭一郎	福村暉史	眞下隆史	和佐谷寛	上羽和幸	小谷繁雄	杉島久敏	松田弘幸	石束悦子	伊田悦子	小杉悦子	後野和史	井上孝空	亀井敏郎	松岡茂長	鯛慶一	西村正之	水嶋一明	議決をした日
創政	創政	新政	新政	新政	新政	新政	新政	公明	公明	公明	公明	共産	共産	共産	共産	鶴翔	鶴翔	鶴翔	無会派	無会派	無会派	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	10月7日
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	10月7日
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	10月7日
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	10月7日
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	10月7日
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	10月7日
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	10月7日
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	10月7日

議案の採決結果

全会一致で可決・認定した予算および決算議案

- 平成 27 年度舞鶴市一般会計補正予算（第 2 号）
- 平成 27 年度舞鶴市国民健康保険事業会計補正予算（第 1 号）
- 平成 27 年度舞鶴市下水道事業会計補正予算（第 2 号）
- 平成 27 年度舞鶴市介護保険事業会計補正予算（第 1 号）
- 平成 26 年度舞鶴市水道事業会計の決算の認定及び利益の処分について
- 平成 26 年度舞鶴市簡易水道事業会計決算の認定について
- 平成 26 年度舞鶴市土地建物造成事業会計決算の認定について
- 平成 26 年度舞鶴市貯木事業会計決算の認定について
- 平成 26 年度舞鶴市下水道事業会計決算の認定について
- 平成 26 年度舞鶴市駐車場事業会計決算の認定について



賛否が分かれた議案および決議

議員名簿等（会派内は五十音順）		出席者数	投票者総数	賛成	反対	棄権	議決結果	伊藤清美	尾関善之	肝付隆治	桐野正明	高橋秀策	谷川眞司
								創政	創政	創政	創政	創政	創政
市長提出議案	平成26年度舞鶴市一般会計決算の認定について	28	27	23	4	0	認	○	○	○		○	○
	平成26年度舞鶴市病院事業会計決算の認定について	28	27	20	7	0	認	○	○	○		○	○
	平成26年度舞鶴市国民健康保険事業会計決算の認定について	28	27	23	4	0	認	○	○	○	議長は採決に加わりません	○	○
	平成26年度舞鶴市介護保険事業会計決算の認定について	28	27	23	4	0	認	○	○	○		○	○
	平成26年度舞鶴市後期高齢者医療事業会計決算の認定について	28	27	23	4	0	認	○	○	○		○	○
	舞鶴市手数料条例の一部を改正する条例制定について	28	27	23	4	0	可	○	○	○		○	○
	公営住宅法及び住宅地区改良法による舞鶴市営住宅等管理条例の一部を改正する条例制定について	28	27	23	4	0	可	○	○	○		○	○
北陸新幹線の京都府北部都市圏を經由する若狭(小浜)ルート of 早期実現を求める要望決議(案)	28	27	23	4	0	可	○	○	○	○		○	
決議													

意見書・決議、12 月定例会予定、編集後記

意見書・決議

9 月定例会では、意見書 2 件と決議 1 件を可決して、国や関係機関に送付し、早期に実現するよう要望しました。

可決した意見書と決議の要旨は次のとおりです。

▽ヘイトスピーチ対策

について法整備を含む強化策を求める意見書

昨年、国際連合自由権規約委員会は、人種差別に該当する差別的言動（ヘイトスピーチ）の広がり懸念を示し、日本に対処措置を採るべきとの勧告をした。

ヘイトスピーチを放置することは国際社会における我が国への信頼を失うことにもなりかねない。

よって、国においては、表現の自由を十分に配慮しつつも、ヘイト

スピーチ対策の法整備を含む強化策の速やかな実施を強く求める。

▽地方創生に係る新型交付金等の財源確保を求める意見書

「まち・ひと・しごと創生基本方針 2015」の決定により、政府は左記の事項を実現するよう強く要請する。

記

1 まち・ひと・しごと

と創生事業費と地方創生関連事業・補助金、新型交付金の役割分担を明確にし、必要な財源を確保すること。

2 まち・ひと・しごと

と創生事業費については、恒久財源を確保の上、5 年間は継続すること。

3 平成 28 年度に創設

される新型交付金は、26 年度補正予算に盛り込まれた地方創生先行型交付金以上の額を確保し、地方にとって使い勝手の良

いものにする。

4 新型交付金事業に

地元負担が生じる場合は、適切な地方財政措置を講ずるなど意欲のある自治体が参加できるように配慮すること。

▽北陸新幹線の京都府

北部都市圏を経由する若狭（小浜）ルート

要望決議

京都府北部 5 市 2 町では、府北部地域を一つの 30 万人都市とする経済・生活圏の形成に向けて取り組んでいる。整備新幹線には産業立地や観光開発等が期待されることから、北陸新幹線を府北部地域に誘致すべきである。

誘致は、府北部地域の発展に向けた最後のチャンスであり、若狭（小浜）ルートを前提に、府北部都市圏、京都府域を経由する北陸新幹線ルートの早期実現を、国に要望するとともに、

京都府にも、積極的に取り組んでいただくよう要望する。



編集後記

台風シーズン到来で心配していましたが、今シーズンは、本市は大きな被害もなく胸をなでおろしています。しかし、被害が大きかった自治体もあり、被災されました皆様には心からお見舞い申し上げます。

さて、議会報 144 号の発行をもってこのメンバーでの編集作業は終了します。他自治体からも学び、市民のみなさんに読んでいただける議会報の編集に努めてまいりましたが、いかがでしたでしょうか。紙面の制限があり、こちらの伝えたい全てがお届けできないとはいえ、できるだけ正確にお伝えすることで、議会を身近に感じていただけるよう編集してまいりました。しかし、まだまだ克服しなければならない課題はたくさんあると認識しております。議会と市民を結ぶ架け橋として、今後も皆様に愛される議会報の編集に努めてまいります。ご覧になっての感想やご意見など、ご遠慮なくこちらまでお寄せいただきますようお願いし、編集後記とさせていただきます。

（伊田悦子副委員長）

【議会報編集委員会】

委員長	岸田圭一郎	副委員長	伊田悦子
委員	井上孝空	委員	杉島久敏
委員	谷川真司	委員	眞下隆史

12 月 定例会予定

11 月

11月27日(金)本会議(開会)

12 月

12月 2日(水)請願受理締切

7日(月)本会議(一般質問)

8日(火)本会議(一般質問、質疑)

9日(水)予算決算委員会分科会・常任委員会

10日(木)予算決算委員会分科会・常任委員会

16日(水)予算決算委員会

22日(火)本会議(閉会)

※予定は変更することがあります。